

平成 2 3 年 6 月 1 3 日

6 月定例市議会

市長所信表明

(はじめに)

本日、6月定例市議会の開会にあたり、議案の提案に先立ち、市政運営の基本方針について市長としての私の所信の一端を申し上げます。

まず、このたびの東日本大震災で犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表し、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。被災地の少しでも早い復興を願い、同じく震災を経験した本市といたしましても引き続き支援を行ってまいりたいと考えております。

また、議員各位におかれましては、明石市の発展と市民の幸せのために日夜ご尽力されていることに対し、心から敬意を表する次第でございます。

私は、先ごろ行われました市長選挙の結果、5月1日より、伝統ある明石市の市長として、市政執行の任に当たらせていただくことになりました。この上ない光栄であると同時に、多くの市民の皆さんの暮らしを預かる職務の責任の重さをひしひしと感じ、身が引き締まる思いでございます。

この市長選挙で、私は、まず一番に、「市民目線での改革」を訴えてまいりました。その結果、僅か 69 票の差で当選させていただいたわけですが、この大接戦は市民の皆さんからのメッセージであると受けとめております。それは、「安定的な改革」です。安定か改革かどちらかを選択するということではなく、市政の改革は進めなければならないけれども、きちんと聴く耳を持ち、議員各位や様々な立場の方々と協調したうえで、安定した市政運営にも努めてもらいたいという市民の皆さんの思いが反映された結果だと考えております。選挙で示されたこの思いを踏まえ、これまで以上に議員各位をはじめとする市民の皆さんのご意見に対し、真摯に耳を傾けるとともに、私自身が大切にしている「市民目線での市政運営」に取り組んでまいりたいと思います。

そして、先人が築き上げてきたこの明石のまちを、さらに発展させるため、私の持てる力のすべてを注ぎ、市民の皆さんとともにまちづくりを行ってまいりたいと思います。議員各位、市民の皆さんには、時に厳しくも、温かいご指導とお力添えをいただきますよう心からお願い申し上げます。

(まちづくりに対する基本的な考え)

私は、弁護士時代から選挙期間中を含め現在に至るまで、多くの市民の皆さんとお会いするなかで、明石に対する熱い思い、地域をこよなく愛する心に数多く接してまいりました。私自身も明石に生まれ育ち、明石をこよなく愛する一人です。

私が、明石市長になると決意いたしましたのは、この愛する私たちのまち明石を多くの市民が「このまちで暮らして良かった」と思える“市民幸福度 日本一のまち”にしたいと考えたからであります。

明石は歴史も文化も豊かなすばらしいまちであり、明石海峡を臨む美しい景観や海の幸をはじめとする食などにも恵まれています。他のまちのまねをするのではなく、今、現に明石にあるものを生かしたまちづくりをし、明石で暮らして幸せだと思える市民の方を一人でも増やせるようにしていきたいと考えております。

また、本年度は、今後 10 年間のまちづくりの指針となる第 5 次長期総合計画のスタートの年です。この計画では、明石の明るい未来への展望を拓くため、「ひと」に焦点をあて、「子どもの健やかな育ち」を切り口に、「ひと まち ゆた

かに育つ 未来安心都市」を目指していくことが謳われています。私自身も長期総合計画審議会における委員の一人としてこの計画の策定に携わり、「ひと」を大切にすまちづくりの重要性を身にしみ感じております。今後は市民みんなで作くりあげたこの計画の趣旨を踏まえ、市民の皆さんとともにまちづくりを行ってまいります。

(取り組み方針)

私は、市民の皆さんとの約束として、「まちを元気にしよう」「子どもの未来を考えよう」「市民とともに語り合おう」など、8つの改革を掲げました。これらの改革を行ううえで、私が最も大切にしたいのは、「市民の皆さん一人ひとりの声」です。

そこで、まずは、私自身が地域に足を運び、身近な地域の課題から市政全般に至るまで、市民の皆さんの生の声をお聴きする「市長懇談会」を28小学校区で開催したいと考えております。そのほかにも、市民の皆さんの代表である議員各位からご意見をいただくことはもちろん、各種団体など様々な立場の方からも幅広くご意見を伺える仕組みとして「あかし市政総合懇話会」をつくり、本市の一体的な市政の推進を

図りたいと考えております。これらの取り組みを通じて、私たち市民自らの手でまちづくりを行ってまいりたいと考えているところでございます。

しかしながら、こういった市政運営を進めていくうえで、考えなければならないのが、市の財政状況、つまりお金の問題です。

現在、明石市は、明石駅前南地区の市街地再開発事業をはじめとする中心市街地の活性化、老朽化が進む学校施設や市役所庁舎の耐震化、市民病院の独立行政法人化など、大きな支出を伴う様々な課題に直面しています。また、市民の皆さんとの約束の中にも、「子どもの未来をつくる」施策の一つである「中学校給食の実施」など、少なからぬ財源を必要とするものがあります。さらに、先の東日本大震災により国の財政は一層厳しくなることが見込まれます。

こうした状況の中、まずは自らが身を削ることが大切と考え、この議会で提案させていただいておりますが、公約である市長給与の3割カットを行いたいと思います。そして、税金の使い道を今一度見直し、将来の子どもたちにできるだけ借金を残すことがないような財政運営に努め、第5次長期総

合計画に掲げる戦略的なまちづくりを進めていくことが私たちの務めであると考えております。そのためにも、限りあるお金をどこにどう使うか、どの施策を優先するのか、議会のご意見も伺いながら、市民の皆さんと一緒に決めてまいりたいと考えております。

ただし、数ある施策の中でも、すでに、多くの要望の声をお聴きしている「中学校給食」につきましては、実現に向けて取り組みを進めてまいります。これにより子どもたちの育ちはもとより、地産地消や食育にもつなげていきたいと考えております。

また、「まちの元気」をつくるうえで、キーポイントとなる「中心市街地の活性化」につきましても、将来の明石にとってどのような形が最も良いのか、早急に市民の意見を集約し進めてまいります。

そのほか、明石市では、たこフェリーの再開や地域医療体制の充実など、広域的な観点から取り組まなければならない課題もありますが、国政での経験も生かし、国や県、近隣の市町とも連携を図りながら進めてまいりたいと考えております。

(終わりに)

明石に暮らす市民、一人ひとりが本当の意味での幸せを感じることが出来るようなまち、“市民幸福度 日本一のまち”にするため、議員各位をはじめとする市民の皆さんと充分に話し合い、協働を図りながら、明石のまちが一步一步着実に発展していくよう、全力を投じてまいります。

どうか皆様のご指導とお力添えをいただきますよう今一度お願い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。